

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 3月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493500064		
法人名	株式会社 楽生舎		
事業所名	グループホームつつじの家		
所在地	山県郡北広島町壬生915-1		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3493500064-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成28年3月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小学校などの施設も近くにあり、ホームの前が通学路になっている為、児童とのふれあいもと り易い環境になっている。中学生の職場体験学習の受け入れも行い交流を図っている。病院も 近くに有り、体調が悪くなった時には直ぐに対応する事が出来る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成14年5月開設のグループホームである。事業所は高速道路のインターチェンジも近く、 交通至便であり、車で5分ぐらいの場所に大型スーパーが立ち並び、町の中心部の商店街にも 近い立地ながらも、周囲にはのどかな田園風景が広がり、風光明媚な環境にある。 事業所の母体法人は、医療法人を中心としたグループを形成し、近隣に老人保健施設、特別 養護老人ホームなど、様々な形態の社会福祉施設を設置しているため、グループホームの運営 や職員教育体制において、法人全体で一貫したシステムが構築されているほか、利用者に対す る医療面のサポート体制も充実している。 明るく和やかな対応を心がけ、その人らしく生活してもらおうという方針のもと、近隣の小 学生や中学生も含めた、地域との交流を重視している事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼で基本理念と接客用語の唱和を行い、目標を確認しながら、統一したケアが行えるようにしている。	人間としての尊厳、プライバシーの尊重を踏まえた施設訓を毎日唱和し、買物や外出など、できる限り地域と密着した生活の継続ができるような実践に心がけている。職員自身が利用者になった時に、自分もしてもらいたいケアを心がけるように、指導がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方に気軽に訪ねて貰える様に、出来るだけ行事に参加し、日常的な付き合いが出来るように努めている。	地元の小学校の運動会や秋祭り、作品の出展などを通じて、地元の方から声をかけてもらったり、花田植など伝統行事への参加や、地元の中学校の職場体験を受け入れるなど、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	随時、事業所へのサービス利用の相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行っており、会議で出た意見交換の内容についてはホームのスタッフと改善策について話し合い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催している。うち年2回は、家族会も兼ねた開催を行っている。会議では、ホーム内での利用者の過ごし方、室内温度の調整など、家族からの意見聴取や、出た希望を踏まえた内容から、腰痛改善体操を取り入れるなど、事業所の運営面等に対する家族の理解の浸透やサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ参加を呼びかけ、情報交換に努めている。	町役場の担当者による運営推進会議への参加があるほか、日頃からの行政当局との連絡調整、窓口は併設老人保健施設の相談員が行い、グループホームとの連絡も担っているなど、日頃から行政と協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルは、全職員がいつでも閲覧出来る場所に設置している。</p>	<p>法人全体での研修のなかで、年1回は身体拘束防止のための研修会を取り入れるようにし、出席した職員が事業所の職員に伝達研修を行っている。拘束防止のためのマニュアルを整備し、やむを得ず拘束を行う場合は家族に書面で説明し、経過記録を残しつつ、ケース検討を重ね拘束が外れるように努力がなされる体制になっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部での勉強会などに参加し、職員へ伝達する事により、職員一人一人が意識しながら取り組むようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会により、制度については学ぶ機会を持っている。現在、対象者は居ないが必要に応じて支援出来る様努めて行きたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際には、契約書の説明を書面と口頭で行うと共に、家族の質問にしっかり答えるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段のコミュニケーションや、表情の観察から入居者の思いを読み取りサービスに反映している。また、玄関にアンケートボックスの設置、面会簿に御意見・御要望の記入欄を設け、迅速な対応を心がけている。</p>	<p>利用者が「外に出たい」と希望する場合、外出ができるように工夫したり、年2回の家族会や、家族面会時の声かけなど、家族と接する機会を通じて日頃の利用者の様子を伝えている。また担当の職員や管理者も含めたカンファレンスの開催を行っているなど、利用者・家族の意見をできるだけ日頃の運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会等、話し合いの場を持ち、意見を聞き入れるようにしている。</p>	<p>個別の介助方法の工夫や改善について意見や提案など、管理者が直接聞いたり、全体会議の中で議題にあげることで、事業所全体で対応を検討している。また、介護技術や実技の方法なども、事業所全体で意見を出し合い、改善に結び付けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人内の部署別発表会などで取り組みについて発表を行う事で、個人の意欲向上・チームとしてのケアや意欲の向上を図っている。又、グループ内に託児所もあり、育児をしながら働ける環境や、家庭内の事情による長期休暇についても、柔軟に配慮出来る体制を取っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内では定期的に研修を行っており、事業所内でも研修の機会を設けている。資格の取得に関しても勉強会を開くなどして、サポートに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>各種サービス事業所が、日々の業務やサービスの中で成果をあげた内容を発表する部署別発表会を行い、良かった事を取り入れる等し、サービスの質の向上に反映している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時に本人や御家族からの要望をしっかりと聴き、アセスメントを行っている。必要なケアが行えるよう、職員同士情報を共有しながら取り組むようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時または面会の際など、御家族の要望を受けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者や御家族からの要望を聴き、リハビリや訪問看護等、必要な部署と連携を図り、必要な支援が出来るように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と一緒に日々の生活を共にし、昔行っていた家事や仕事、趣味など培った物を教えて頂きながら、より良い関係が築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族には、入居者の近況を定期的に伝えている。また、必要に応じて他の病院の受診など、一緒に本人を支えて行けるよう関係作りに努めている。又、カンファレンス時には、都合のつく家族の参加により、意見や要望を出してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人や御家族からの情報収集により、馴染みの関係や場所の把握に努めている。	近隣の商店街へ買い物へ出かけることで、馴染みの住民との触れ合いを深めているほか、友人や知人からの電話の取次ぎ、年賀状記入の手伝いなど、本人がこれまで大切にしてきた、馴染みの人との関係性が途切れないような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で、入居者同士が相手を思いやれるように、会話を取り持ちたり、一緒に行動が取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も、関係事業所を利用される事が多く、入居者や御家族との交流が図れるように努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活背景や家族からの聴き取りなどから、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を汲み取り支援している。毎日の体調や状況に応じて、本人本位になるよう支援しているが、困難な場合は適切な支援が行えるよう努力している。	入居時に生活歴、家族歴を聞き取り、それを踏まえたアセスメントの実施、ケアプランの作成を行っている。利用者にとって「何が楽しいか」を把握するよう努めているほか、毎日の体調や機嫌などを観察して、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関連事業所や御家族からの聞き取りなどを行い、入居者の情報収集に努めている。可能であればご本人からの聞き取りも併せて行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の身体状態や生活リズムの観察を行い、それぞれに合った生活をしていただけるよう、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者ごとに担当の職員を決め、本人の状態を把握している。介護計画の作成には、日頃の状態を家族・介護支援専門員・介護職員、その他関係職員で話し合い、全職員で検討し本人の意向に沿った介護計画を作成している。</p>	<p>本人の状況を踏まえた介護計画を作成し、その短期目標を、日々の介護記録兼申し送りノートに常に見えるように記載している。日々の介護を実施しながら、個別の介護計画を常に確認できるようにし、必要に応じ適切な計画になるよう、常に見直しが行われているなど、チームで介護計画を作成する取り組みがなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子や変化を日々記録している。必要事項は、申し送りやカンファレンスで情報を共有し見直しに活かせるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>関連事業所と常に連携を取りながら、情報の共有を行い、入居や退去などの対応が出来るようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>法人での取り組みとして、民生委員との定期的な話し合いや、必要に応じて行政・消防機関の方に運営推進会議の参加を依頼し、情報交換を行っている。また、各事業所のサービス説明を行い、必要なサービスに繋げていけるような関係作りに取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居者の主治医が継続出来、掛かりつけの病院が受診できるように努めている。現在入居されている方は、グループ内の病院を主治医とされている方が多く、御家族の希望もあり、継続して診て頂いている。</p>	<p>併設の医療機関からの訪問診療が、2週間に1回あるほか、整形外科などの専門診療科や、歯医者など通院しなくてはならない場合には、原則家族に対応を依頼しているものの、難しい場合には事業所で通院の対応を行っており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携体制をとっており、契約を交わした訪問看護ステーションの看護師が定期的に訪問し、利用者の体調管理・医療的なアドバイスや相談援助を行なっている。また、緊急時や日祭日にもすぐに連絡出来る体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から、情報交換を行っており、入院があった際は、状態の把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合については、御家族とも折りをみて話し合う機会を設けている。終末期のケアのあり方については御家族の要望を考慮しながら、主治医とも連携を図りながら行っている。又、医療連携を取っている訪問看護師と対応指針を作成し御家族に対しては、必要に応じて同意書を取るようになっている。</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応について家族に説明しているほか、実際に重度化した場合には、本人の状態を見ながら併設病院との連携を図り、医師の指示で適宜入院のできる体制を構築している。過去に看取りを実施したケースはあるものの、本人の状態を踏まえ適切なケアが実施できる医療との連携に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故発生に対するマニュアルを備え付け、連絡手順や対処法などを記しており、全職員が閲覧出来る場所に設置している。また、訪問看護師の訪問時に医療的アドバイスを受たり、内部研修で心肺蘇生法の講習を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域の方と協力協定を結んでおり、定期的に合同で避難訓練を行っている。実際に職員だけの訓練とせず、入居者にも参加して頂く事で、地域の方に利用者の方を理解して頂けていると思う。</p>	<p>地元と防災のための協力協定を結んでおり、年2回行う防災訓練は夜間を想定した訓練であり、うち秋の消防訓練は地元と共同開催で行っている。訓練の際は近隣の併設施設と共に行い、事業所間の協力体制を築くことで、実効的な災害対策を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いの方針を事業所内に掲示し、個人情報の保守や入居者の尊厳の保持を常に心掛けながら日々のケアに努めている。記録等の取り扱いも配慮しながら行っている。	排泄チェック表など、利用者のプライバシーに関する記録は、目に触れないように配慮し、トイレ使用時には、他の利用者が間違っただけに入らないような工夫をおこなっているほか、同じ苗字の方が多いので、下の名前で呼ぶことがあるときもかならず敬語や丁寧語で話すなど、利用者の誇りや尊厳を損なわない対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の表情や言動などから、思いや意思が汲み取れるような働きかけや、声掛けを行っている。入居者の自己決定を尊重できるような、支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のその日の状態に応じて、本人のペースや要望に合わせて生活して頂けるよう、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	地元の理容院に御協力頂き、定期的に出張して頂いている。また、本人や御家族の希望に応じて、行きつけの理容院を続けて利用して頂いている。また、今まで使っていた化粧品等も持参して頂き、その人らしく過ごせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の方に米とぎをして貰い、職員と共に器に盛り付け、食べる事が楽しくなるよう、出来る事を支援しながら一緒に行っている。また、月2回季節に応じたおやつ作りを行い、調理の機会を設けている。	食事は併設の老人保健施設から運ばれてくるが、米飯は利用者が米とぎを手伝っているほか、配膳を手伝うなど、食事準備の参加ができるよう配慮されている。また、餅つきやおはぎづくりなど、季節に応じたおやつ作り、併設事業所で採れた新鮮な野菜の提供など、利用者が食事を楽しむことができる配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランス、必要カロリーを考慮した食事を、一人一人の摂取量に合わせて配膳を行い、摂取量の確認を行いながら、状態の観察に努めている。水分摂取量も都度確認をしながら脱水予防に努めている。水分を摂取しにくい方は好みの飲み物や、嚥下状態に合わせた飲み物を準備する等、工夫に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後、個人の能力に合わせてながら、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔ケアを行うと共に、口腔内の状態の観察や義歯が合うかどうかの観察も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人の排泄パターンを把握し、残存能力を活かしつつ、声掛けや誘導など統一したケアが行えるように努めている。また、病気などで一時的にオムツを使用する場合は、状態回復後に以前の状態に戻せる様に努めている。</p>	<p>日中はすべての利用者がトイレで排泄しているほか、夜間のみオムツを使用する方も少数である。一人ひとりの排泄パターンを把握することで、排泄の自立に努めることにより、仮に入院して一時的にオムツになったとしても事業所に帰ってくればすぐにオムツが外れるなどの効果が表れている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事・おやつ以外にも、適宜水分が摂取出来るよう促している。水分の入りにくい方には好みの飲み物を用意する等の工夫を行っている。散歩など適度な運動を促しながら、必要に応じて、内服や坐薬、オリゴ糖を服用するなど、入居者の状態に合わせたコントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入居者の体調や希望に応じて、入浴を行うようにしている。発汗や排泄等汚染の際も、シャワー浴を行ったりと、柔軟な対応を心がけている。</p>	<p>週2回、午後から入浴することになっているが、希望すれば回数を増やして入浴できる。また、利用者の体調に応じてシャワー浴の実施を行うなど、柔軟に対応がなされている。また、脱衣場には温風ヒーターを設置し、快適に入浴できるような配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣に合わせ、起床・就寝など柔軟に対応している。居室の室温なども季節に応じて管理するなど、入眠しやすい環境づくりにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方指示書や医師からの指示により、内服の用法・容量等の理解に努めるとともに、入居者の状態の把握を行っている。配薬が必要な方に対しては、一日分ずつケースに入れて誤薬の無いよう名前を確認しながら、確実に投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や趣味などを活かして、ご本人の希望に応じ草取りや掃除を行っている。役割を持って行っている方は、安全面に注意し、無理なく継続出来るよう援助を行なっている。娯楽や楽しみにも重点を置き歌や散歩、ゲームなど行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出を希望される入居者には、職員が同行し、安全に配慮しながら外出を楽しんでいる。また、散歩やドライブ、買い物など、介護者側から定期的なアプローチも行っている。	職員から声かけを行い、散歩や買い物を行っているほか、本人の希望で外出ができるような支援も行っている。また、季節に応じてお花見、芝桜見物など、併設事業所の車を借りてドライブに出かけているなど、できるだけ戸外に出られるような支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談の上、個人管理が可能な方は、自己管理をしていただき、紛失される可能性のある方は、ご本人の了承の下、事業所で管理している。必要な際には、お金をお渡しして、買い物が可能な方（自己管理の方も）は、買い物に同行するなどの援助をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人からの要望に応じ、可能な方には直接電話を掛け話していただいている。手紙も要望があれば、投函などの支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ブラインドや空調による光や温度の調節を行うと共に、玄関先や中庭などに花を植えたりして、季節感を感じられるような工夫をしている。</p>	<p>ボランティアの協力を得て、絵画やちぎり絵を飾ったり、玄関や庭に花を植え、大きな窓から明るい日差しと共に季節感を感じられるような工夫がなされている。また、トイレの扉も大きな開口部を取りながら、省スペースで開閉ができる作りであり、共有スペースにはちょっと腰を掛けられる畳スペースがあるなど、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になれたり、気のあった入居者同士で思い思いに過ごせるように考えて、ソファの配置をしている。入居者が居室から出てきて自然に話しが出来る等、ホールを憩いの場としている。また、気の合った入居者同士と一緒に過ごせるよう考慮して、食堂の席を配置している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室のベッドやチェストは備え付けの物があるが、その他の小物などは、入居者の好みなどに合わせて、自由に持ち込んでいただいている。</p>	<p>居室には専用の洗面台が設置されており、利用者にとって自室の清潔を保持するのに役立つほか、備え付けのベッド、チェスト、好みの物を貼れる天然木材のボードがある。利用者は好みの物を持ち込むことができるため、居心地よく過ごすことができる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が安全に家事などの役割をして生活出来るよう、整理するなどの環境整備に努めている。また、居室やトイレが分かりにくい方に対しては、見えやすく大きく名前を書くなど配慮している。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼で基本理念と接客用語の唱和を行い、目標を確認しながら統一したケアが行えるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方に気軽に訪ねて貰える様に出るだけ行事に参加し、日常的な付き合いが出来るように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	随時、事業所へのサービス利用の相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行っており、会議で出た意見交換の内容についてはホームのスタッフと改善策について話し合いサービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ参加を呼びかけ情報交換に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを全職員がいつでも閲覧出来る場所に設置している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部での勉強会などに参加し、職員へ伝達する事により職員一人一人が意識しながら取り組むようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会により制度については学ぶ機会を持っている。現在、対象者は居ないが必要に応じて支援出来る様努めて行きたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際には契約書の説明を書面と口頭で行うと共に、家族の質問にしっかり答えるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段のコミュニケーションや、表情の観察から入居者の思いを読み取りサービスに反映している。また、玄関にアンケートボックスの設置、面会簿に御意見・御要望の記入欄を設け、迅速な対応を心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会等、話し合いの場を持ち意見を聞き入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内の部署別発表会などで取り組みについて発表を行う事で個人の意欲向上・チームとしてのケアや意欲の向上を図っている。又、グループ内に託児所もあり育児をしながら働ける環境や家庭内の事情による長期休暇についても柔軟に配慮出来る体制を取っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では定期的に研修を行っており、事業所内でも研修の機会を設けている。資格の取得に関しても勉強会を開くなどしてサポートに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各種サービス事業所が日々の業務やサービスの中で成果をあげた内容を発表する部署別発表会を行い、良かった事を取り入れる等しサービスの質の向上に反映している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に本人や御家族からの要望をしっかりと聞きアセスメントを行っている。必要なケアが行えるよう職員同士情報を共有しながら取り組むようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時または面会の際など、御家族の要望を受けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者や御家族からの要望を聴き、リハビリや訪問看護等必要な部署と連携を図り必要な支援が出来るように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と一緒に日々の生活を共にし、昔行っていた家事や仕事、趣味など培った物を教えて頂きながらより良い関係が築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族には入居者の近況を定期的に伝えている。また、必要に応じて他の病院の受診など一緒に本人を支えて行けるよう関係作りに努めている。又、カンファレンス時に都合のつく家族に参加してもらい意見や要望を出してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人や御家族からの情報収集により馴染みの関係や場所の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活の中で入居者同士が相手を思いやれるように会話を取り持ったり、一緒に行動が取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も、関係事業所を利用される事が多く入居者や御家族との交流が図れるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活背景や家族からの聴き取りなどから一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を汲み取り支援している。毎日の体調や状況に応じて、本人本位になるよう支援しているが、困難な場合は適切な支援が行えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	関連事業所や御家族からの聞き取りなどを行い入居者の情報収集に努めている。可能であればご本人からの聞き取りも合わせて行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の身体状態や生活リズムの観察を行い、それぞれに合った生活をしていただけるよう現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者ごとに担当の職員を決め、本人の状態を把握している。介護計画の作成には日頃の状態を家族・介護支援専門員・介護職員、その他関係職員で話し合い全職員で検討し本人の意向に沿った介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子や変化を日々記録している。必要事項は申し送りやカンファレンスで情報を共有し見直しに活かせるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>関連事業所と常に連携を取りながら、情報の共有を行い、入居や退去などの対応が出来るようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>法人での取り組みとして、民生委員との定期的な話し合いや、必要に応じて行政・消防機関の方に運営推進会議の参加を依頼し、情報交換を行っている。また、各事業所のサービス説明を行い、必要なサービスに繋げていけるような関係作りに取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居者の主治医が継続出来、掛かりつけの病院が受診できるように努めている。現在入居されている方はグループ内の病院を主治医とされている方が多く、御家族の希望もあり継続して診て頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携体制をとっており、契約を交わした訪問看護ステーションの看護師が定期的に訪問し利用者の体調管理・医療的なアドバイスや相談援助を行っている。また、緊急時や日祭日もすぐに連絡出来る体制を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から、情報交換を行っており、入院があった際は状態の把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合については、御家族とも折りをみて話し合う機会を設けている。終末期のケアのあり方については御家族の要望を考慮しながら主治医とも連携を図りながら行っている。又、医療連携を取っている訪問看護師と対応指針を作成し御家族に対し必要に応じて同意書を取るようにしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故発生に対するマニュアルを備え付け、連絡手順や対処法などを記しており、全職員が閲覧出来る場所に設置している。また、訪問看護師の訪問時に医療的アドバイスを受けたり内部研修で心肺蘇生法の講習を受けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>地域の方と協力協定を結んでおり、定期的に合同で避難訓練を行っている。実際に職員だけの訓練とせず、入居者にも参加して頂く事で、地域の方に利用者の方を理解して頂けていると思う。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いの方針を事業所内に掲示し、個人情報の保守や入居者の尊厳の保持を常に心掛けながら日々のケアに努めている。記録等の取り扱いも配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の表情や言動などから、思いや意思が汲み取れるような働きかけや声掛けを行っている。入居者の自己決定を尊重できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のその日の状態に応じて、本人のペースや要望に合わせて生活して頂けるよう、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	地元の理容院に御協力頂き、定期的に出張して頂いている。また、本人や御家族の希望に応じて行きつけの理容院を続けて利用して頂いている。また、今まで使っていた化粧品等も持参して頂き、その人らしく過ごせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の方に米とぎをして貰い、職員と共に器に盛り付け、食べる事が楽しくなるよう出来る事を支援しながら一緒に行っている。また、月2回季節に応じたおやつ作りを行い、調理の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランス、必要カロリーを考慮した食事を一人一人の摂取量に合わせて配膳を行い、摂取量の確認を行いながら状態の観察に努めている。水分摂取量も都度確認をしながら脱水予防に努めている。水分を摂取しにくい方は好みの飲み物や、嚥下状態に合わせた飲み物を準備する等工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、個人の能力に合わせながら、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔ケアを行うと共に、口腔内の状態の観察や義歯が合うかどうかの観察も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、残存能力を活かしつつ声掛けや誘導など統一したケアが行えるように努めている。また、病気などで一時的にオムツを使用する場合は状態回復後に以前の状態に戻せる様に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・おやつ以外にも適宜水分摂取出来るよう促している。水分の入りにくい方には好みの飲み物を用意する等の工夫を行っている。散歩など適度な運動を促しながら、必要に応じて内服や坐薬、オリゴ糖を服用するなど、入居者の状態に合わせたコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の体調や希望に応じて入浴を行うようにしている。発汗や排泄等汚染の際もシャワー浴を行ったりと、柔軟な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣に合わせて起床・就寝など柔軟に対応している。居室の室温なども季節に応じて管理するなど入眠しやすい環境づくりにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方指示書や医師からの指示により内服の用法・容量等の理解に努めるとともに、入居者の状態の把握を行っている。配薬が必要な方に対しては一日分ずつケースに入れて誤薬の無いよう名前を確認しながら確実に投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や趣味などを活かしてご本人の希望に応じ草取りや掃除を行っている。役割を持って行っている方は、安全面に注意し無理なく継続出来るよう援助を行なっている。娯楽や楽しみにも重点を置き歌や散歩、ゲームなど行えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出を希望される入居者には職員が同行し、安全に配慮しながら外出を楽しんでいる。また、散歩やドライブ、買い物など介護者側から定期的なアプローチも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談の上、個人管理が可能な方は、自己管理をしていただき、紛失される可能性のある方は、ご本人の了承の下、事業所で管理している。必要な際には、お金をお渡しし、買い物が可能な方（自己管理の方も）は、買い物に同行するなどの援助をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望に応じ、可能な方には直接電話を掛け話していただいている。手紙も要望があれば、投函などの支援も行う。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインドや空調による光や温度の調節を行うと共に、玄関先や中庭などに花を植えたりして季節感を感じられるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になれたり、気のあった入居者同士で思い思いに過ごせるように、考えてソファの配置をしている。入居者が居室から出てきて自然に話しが出来る等、ホールを憩いの場になっている。また、気の合った入居者同士と一緒に過ごせるよう考慮して食堂の席を配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室のベットやチェストは備え付けの物があるが、その他の小物などは、入居者の好みなどに合わせて自由に持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者が安全に家事などの役割をして生活出来るよう整理するなどの環境整備に努めている。また、居室やトイレが分かり難い方に対しては、見えやすく大きく名前を書くなど配慮している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつつじの家

作成日 平成28年3月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	利用者の希望や家族の意向が汲み取れているか?	利用者・家族の意向に沿ったケアを行う	利用者、家族との関係を密にし思いを汲み取ったケアプランの作成をする	6ヶ月
2	7	職員同士が介護技術等について話し合える場をもっと作っていきたい	職員の意識・知識・技術の向上	リハビリや看護等、他部署との勉強会を設け、技術・知識を増やしていく	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。